

2024年1月5日

甲辰の年

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 渡辺 博史

明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスの禍は鎮静化する中で、戦乱は各地で継続、勃発し、欧米におけるインフレーション対策としての高金利が金融機関の不安定化、米ドルの独歩高を招き、AIの進化は人間を脅かすレベルに達する？…などと列記するのが嫌になるくらい面倒かつ複雑な事象に見舞われました。さて、今年は何か良いことがあるだろうかという手がかりを探るべく、自称「恒例」の十干十二支を遡る作業をして行きましょう。

今年は十二支の「辰 たつ」年で、十干では「甲 きのえ」にあたり、「甲辰 きのえたつ」年ということになります。「辰」は十二支の五番目、「甲」は五行説の木火土金水のうちの「木」の兄（陽）ということで1番目。十干十二支の組み合わせの60干支でいえば、41番目にあたります。

甲辰の運氣について語る能力は全く無いので、例年同様、単に過去の甲辰の年の出来事を見て行きましょう。

まずは直近の1964年ですが、一番のハイライトはオリンピックで冬にオーストリアのインスブルックで開かれ、そして10月にはパラリンピックとともに、アジアで初めてとなる東京で開催されました。当時港区青山に居住していた筆者は、競技場の上に大きくジェット機で描かれた五つの輪を見上げて高揚したものでした。そして、その準備の一環としての東海道新幹線の開業。東京―新大阪間の試運転の全線中継にも息を飲んだものです。その派生では無いですが、今や乱立？する駅のコインロッカーが、この年に新宿駅に始めて配備されました。

また、今や我々の生活を支配しかけているAIのはしりとして、IBMが汎用コンピュータを発売し、国内ではシャープが電卓の発売を開始しました。

またオリンピックが日本の発展の一つのシンボルであったように、国際金融において東京が地歩を占めた証としてIMF・世界銀行の年次総会も東京で開催されました。一方、昨年からのガザでの戦闘の遠因ともなるパレスチナ解放機構が設立されています。

多少、楽しい話を述べると、ロッテの「ガーナ」チョコレート、「かつぱえびせん」が発売され、「オバケのQ太郎」の連載が始まりました。皆、息が長いですね。

次が、1904年。話がやや暗転しますが、日本はロシアとの戦争を開き、翌年の講和まで戦いを継続しました。これに触発され、与謝野晶子は「君死に給うことなかれ」を発表しています。この年も企業がいくつか興されていますが、芝浦製作所（現東芝）、三越呉服店（現三越百貨店）がその例です。また、開業ではありませんが、当研究所の発足につながるご縁を持つ横浜正金銀行の本店が竣工しています。

多少ウキウキしそうな話としては、国際サッカー連盟が創設され、また米国セントルイスで開催された万博において「ハンバーガー」が史上初めて販売されたとされています。また50年後の1954年に第一作が発表され、最近の「-1.0」も含めて70年の間に多数の映画が連作されている「ゴジラ」の原作者香山滋が誕生しています。「偉大な大人の童話作家」とも呼ばれた香山は、筆者と同じ官庁での勤務から、経歴をスタートしています（なお、昨年末には初代ゴジラ役者の薩摩剣八郎が逝去されています）。映画の関係でつなげば、最近公開された「オッペンハイマー」の主人公もこの年生まれています。芸術科学面を見ると、ダリ、ガモフがこの年誕生していますし、二極真空管（ダイオード）が発明されています。

もう一つ遡ると、1844年。日本の天保年間にあたりますが、それほど大きな事件は無かったようです。安全マッチが発明されています。誕生した人だけ挙げておくと、ニーチェ、ヴェルレーヌ、リムスキー・コルサコフ、アナトール・フランス、アンリ・ルソー、陸奥宗光など錚々たる顔ぶれとなります。

この先は、めぼしいものが少ないので、つまみ喰いで行くと、1784年には、「漢委奴国王」の金印が発見され、カントが前年に「純粹理性批判」を発表しています。そして、1724年には、そのカントが誕生しています。

1664年にはアメリカ大陸東岸のオランダ植民地ニューアムステルダムが英国軍に占拠され、ニューヨークと改名されました。

ここで打ち止めにしますが、1604年には徳川家康が秀忠に命じて、東海、東山、北陸の三街道に一里塚を設置させ、シェイクスピアの戯曲「オセロ」が初公演されました。そして三代将軍家光が生まれています。

この2024年、場合によっては1945年以降最悪の年になるかも知れない…という声もありますが、龍が空高く飛翔するのに伴って生起する嵐に巻き込まれてでも一歩前に進めれば良いかなと思っています。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2024 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話 : 03-3510-0882 (代)

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>